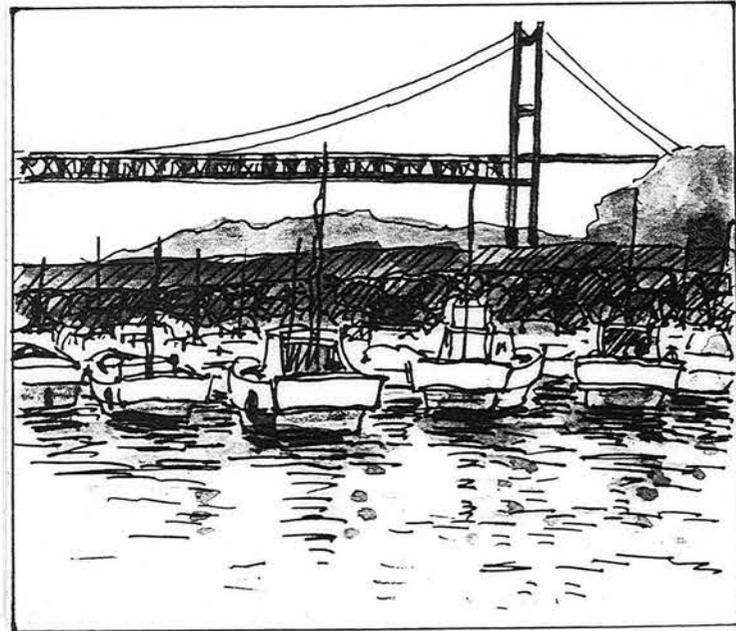


頌春



「平戸大橋」 高橋 現平 画



森 一作 詩

「さわやか」ニュースを定期的に発行しようと考えています。ボランティアの皆さんに紙面を提供し、投稿をお願いし、紙面の充実を計りたいと思っています。今回は、匿名希望のKさんに原稿をお願いしました。

色んな機会にもっと学びたい

あるボランティアの先輩が言いました。『ボランティアは他人(ひと)に何かをしてあげるといったものではない勉強ですよ。自分のための勉強で、人生のことを教えてもらっているですよ』と。私も同感です。ボランティアを始めて日も浅くわからないことが多いです。

例えば献腎についても漠然としたイメージしか浮かびません。献腎にはどのような条件が求められるのか、もっと知りたいし、臓器移植が日本では法の成立も含めて行く行かないのはなぜかについても

医学的側面からだけでなく社会的・宗教的側面からも知りたいです。

また、ボランティア精神についてもまだ正確な知識をもっていないので私にとってはこちらの問題です。

ボランティアを「自分のための勉強」とだけ捉えるのも一寸疑問を感じない訳でも

今年の継続で

今年も頑張ります

十二月末現在で、ボランティア総数四十名、利用者三名になっていきます。

昨年同様、年初から送迎を開始しています。事務局ではコーディネーターの山田さん、バートの村山さんが頑張っています。ボランティアの皆さんにも、年初から、送迎のお

本年もご協力いただき、お願い申し上げます

(財) 全腎協・北九州市腎友会
介護センター「さわやか」
会長

山田 博幸

新年明けましておめでとございます。昨年は、通院介護事業にご協力いただき、ありがとうございました。透析患者が主体となつて組織された通院介護事業は全国で初めてということ、新聞やテレビ等で、注目を集め、北九州市民の中にも一定の市民権を得られたとおもっています。「さわやか」は設立して、まだ三ヶ月しか経過していませんが、利用者の方からは大変喜んでいただき、この事業をはじめよかったです。若しこの問題があるにしても、充実感と満足感でいっぱいです。これも一重にボランティアの皆様の援助のお蔭と感謝しています。

年初にあたり、早速役員会を開催し、今後の方針と展望を確立したいと考えています。四月六日(日)には、第一回ボランティア研修交流会を開催しようとして計画しています。具体化したら、皆様にご連絡します。

今年、あまり背伸びせずに、現行の通院介護を少しづつ拡大・発展させて行こうとがんばっています。

年初に当たり、昨年のご協力に感謝するとともに、今年も是非、昨年同様のご協力をいただけるようお願いして、ボランティアの皆様への挨拶にします。

手伝いをしていたいただきます。一月十九日に、役員会を開催し、今年の方針と運営について討議をし、決定をすることにしていきます。

役員会の方針が決定しましたら、皆様にお知らせします。昨年末、好評だった、研修・交流集会を、今年も、四月六日(日)に予定しています。目的地や研修内容については後日連絡します。

一月末には、「読売新聞」の医療特集記事として、全国版に掲載される予定です。

「せんじんきょう」にも掲載されていますので、ボランティアの皆さんには、一部あて送付いたします。読んで下さい。

